

水道事業会計

1 決算の概況

事業の実績

総給水量及び有収水量は、前年度と比較すると、増加している。これは、応援給水が増加（680,024 m³、対前年比 45.1%増）したことが大きな要因である。

有収率は、前年度と比べて 0.8 ポイント低下している。

事業の基盤となる導送配水管延長及び給水人口を見ると、配水管の延長は本年度も伸びており、給水人口はわずかに増加している。

1日給水能力は、平成16年度の合併に伴って増加したが、その後の増減はない。

1日平均給水量は、17年度以降、減少が続いていたが、本年度は若干増加している。

1日最大給水量では、合併に伴う増加のあとは減少傾向にある。施設利用率は、17年度から20年度まで低下が続いていたが、本年度は若干上昇している。最大稼働率は、17年度以降、低下が続いている。

予算の執行状況

予算現額に対する決算額の執行率は、収益的収支においては、収入は前年度の執行率を上回っており、支出は前年度の執行率を下回っている。また資本的収支においては、収入支出とも、前年度の執行率を上回っている。

経営成績（損益計算書）

純利益を生じ、前年度に引き続き黒字決算となっている。前年度と比較すると、総収益と総費用ともにわずかではあるが減少している。減少の主な要因は、総収益においては、営業外収益における貸付金利息などの減少であり、総費用においては、営業外費用における高金利企業債の借換え効果による企業債利息などの減少である。

この結果、総収支比率（総費用に対する総収益の割合）は、総収益の減少割合よりも、総費用の減少割合の方が大きいため、上昇している。

近年の状況を見ると、総収益は、増減を繰り返していたが、本年度は、前年度に引き続き減少しており、総費用は、平成18年度以降は減少している。総収支比率については、平成20年度を除き上昇傾向にあり、本年度も 1.3 ポイント上昇し 116.7% となっている。

財政状態（貸借対照表）

前年度と比較すると、資産、負債及び資本全て増加している。主な要因としては、資産においては、現金及び預金が減少したものの、有形固定資産や未収金が増加したこと、負債においては、未払金や退職給与引当金が増加したことがあげられる。また、資本においては、自己資本金や国県市補助金が増加したことによる。

近年の状況を見ると、資産は、平成20年度を除き増加傾向にあり、本年度も増加している。負債は、平成18年度以降増減を繰り返しており、本年度は増加している。資本は、増加傾向にある。

経営指標数値

経営指標としてあげられる数値には、経営活動の結果生じた利益や収支などの状況によって経営成績を表すものや、現金等の資産、負債及び資本などの状況によって長期的健全性や短期的支払能力などの財務能力を示すものがある。また、収益との関係で資産・資本の有効活用性を示すもの、企業債が経営に及ぼす影響を示すもの、職員に關係する収益性を示すものなどがある。

これらの指標としては、総収支比率、経常収支比率、営業収支比率、自己資本構成比率、流動比率、自己資本回転率、企業債償還元金対料金収入比率、職員給与費対料金収入比率などがある。なお、経営指標の項目及び内容などについては、「6 経営指標について」を参照されたい。

企業債関連を示す指標は、前年度に引き続き、5つの指標全てにおいて向上している。利益率・収益性を示す4指標は、総資本利益率については向上し、他の3指標については、利益が発生し経営が安定した良好な状態とされる100%以上であり、うち2指標が向上している。また、職員関連を示す指標は、3指標全てにおいて向上しているものの、他市平均と比べると良好ではなく、職員の生産性が高いとはいえない。

以下、事業の実績、予算の執行状況、経営成績、財政状態及び経営指標の各事項について、順次述べることとする。